



目 次

- ◆ [第110回国立大学法人10大学理学部長会議開催される](#)
- ◆ [「『魅力ある大学院教育』イニシアティブ」で理学院化学専攻の取組が最高の事後評価を受ける](#)
- ◆ [国際会議・シンポジウム等の開催](#)
【数学部門】
 - [Mathematical Aspects of Image Processing and Computer Vision 2008](#)
[The 8th Symposium of MAIPCV](#)
 - 【数学部門】
 - [The 6th HU and SNU Symposium on Mathematics-Geometry and Topology-as a part of The 11th HU-SNU Joint Symposium](#)
 - 【生命理学部門】
 - [国際自然免疫シンポジウム](#)
[—自然免疫の認識分子から抗菌ペプチドまで—](#)
[“Regulation in Innate Immunity from Recognition Molecules to Antimicrobial Peptides”](#)
- ◆ [外国人研究者受入状況](#)
[\(2008.10.02～2009.01.01\)](#)
- ◆ [海外からの来訪者\(短期滞在\)](#)
[\(2008.10.02～2009.01.01\)](#)
- ◆ [外国の研究機関との共同研究](#)
- ◆ [学位授与](#)
[平成20年12月25日付け学位授与者](#)
- ◆ [人事異動\(正規職員・非正規職員\)](#)
[\(H20.10.02～H20.01.01\)](#)
- ◆ [行事予定\(平成21年1月～平成21年4月\)](#)

第110回国立大学法人10大学理学部長会議開催される

第110回国立大学法人10大学理学部長会議が平成20年10月9日（木）、10日（金）の両日、東京大学の当番によりKKRホテル東京で開催されました。

はじめに、出席した文部科学省高等教育局国立大学法人支援課海老名企画官から、「国立大学法人をめぐる現状について」と題して、①平成21年度概算要求、②運営費交付金配分、③国立大学法人の第二期中期目標・中期計画の項目等、④中央教育審議会への諮問、以上4項目について、資料に基づき説明後、意見交換が行われました。

議題として、

1. 留学生30万人計画について
2. 共同利用・共同研究拠点について
3. 大学院学生の入学定員について

承合事項として、

1. 各大学における理学部（理学系学部）と理学系大学院の構成について
2. 教育の国際化の取り組み状況について
3. マスター修了生の進路について

等について、活発な意見交換及び情報交換が行われました。

参加大学： 北海道大学、東北大学、筑波大学、東京大学、東京工業大学、
名古屋大学、京都大学、大阪大学、広島大学、九州大学

『『魅力ある大学院教育』イニシアティブ』で理学院化学専攻の取組が最高の事後評価を受ける

文部科学省の「魅力ある大学院教育」イニシアティブは、現代社会の新たなニーズにこたえられる創造性豊かな若手研究者の養成機能の強化を図るため、大学院における意欲的かつ独創的な研究者養成に関する教育取組に対し重点的な支援を行うことにより、大学院教育の実質化（教育の課程の組織的な展開の強化）を推進することを目的として平成17年度から実施された事業です。本学での取組は、平成17年度5件、18年度2件の合計7件が採択され、そのうち各年度1件が理学院で実施されたプログラムです。

専門家や有職者により事業の実施結果等を確認し、その結果を各大学にフィードバックし、今後の自主的・恒常的な展開に資するために適切な助言を行うとともに、その活動の成果と併せて広く社会に公表することにより、我が国の大学院教育の実質化を推進することを目的として、2年間の事業期間終了後に事後評価が実施されています。

理学院化学専攻の取組「高邁なる大志を抱いたT型化学者養成」（取組実施担当：化学部門 鈴木孝紀 教授）が、この事後評価にて最高のランクである「目的は十分に達成された」という判定を受けました。

大学院学生が自ら計画した専攻内での共同研究に研究実施の権限を付与するインターラボの取組は、分野横断的な研究者養成の取組としての波及効果に、女性リーディングサイエンティスト育成のための様々な企画は、女性研究者の養成に向けた教育モデルとして高く評価されています。

関連URLは以下の通り：

http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/20/11/08112503.htm

<http://www.jsps.go.jp/j-initiative/sinsa.html>

<http://wwwchem.sci.hokudai.ac.jp/inichem2006/index.htm>

●評価プログラムの担当者から

直接的な教育効果や取組の継続性とは別に、「魅力ある大学院教育」イニシアティブプログラムに求められているものは、外部へと発信する対外的なインパクトであると思います。すなわち、そのプログラムが学内組織・教育体制に、ひいては国内の他大学に於ける大学院教育にどのように新たな示唆を与えることができるのかが問われているということです。

本プログラムは理学院化学専攻の大学院生を対象として、「視野や知識を広く持ち、但し専門は1つで深く突き詰める」というT型人材育成モデルの実践・実質化を提案したのですが、本工学研究科では化学系三専攻が中心となって先に大学院教育イニシアティブ「 π 型フロンティア博士育成プログラム」を提案して実施し、双峰型教育体制のもとでより広い専門分野を持つ研究者育成が行われています。両プログラムともに、進化し多様化する先端化学領域に挑戦できる次世代の化学者養成を目指したものです。「幅広い知識」と「ダブルディグリー」、これらの延長線上にあるものは「理工の融合」にほかならないと考えられます。同一のキャンパス内に

立地するという恵まれた地理的条件から、理学院化学専攻と工学研究科化学系三専攻は、関連分野での理工合同での研究会や交流セミナー等が頻繁に実施され、単位の互換認定など教育協力はこれまでも活発に行われてきましたが、真の意味での理工の融合は、新たな組織の設立によって初めて成し遂げられるものと考えます。すなわち、理工の融合は多くの主要国立大学法人の化学系分野でその実施が試みられていますが、理学—工学の教育文化の違いを互いに理解できるまで教育体制のすり合わせを行い、大学院入試や講義カリキュラムまでも完全に一本化して初めて、その有効性が最大限発揮できるものと思います。

現在本学では、長期的な視野に立った理工系大学院組織整備が計画されており、グローバルCOE「触媒が先導する物質科学イノベーション」の後押しを受けて、新しい化学系大学院組織「総合化学院」の設立準備が進行中です。本プログラムが新大学院組織設立の端緒の1つであると考えるとき、本取組は真の意味での理工の融合を、大学院レベルで実施する壮大な計画への第一歩であったといえます。

今回は、「魅力ある大学院教育」イニシアティブ委員会より、本プログラムに対して非常に高い評価をいただきましたが、本プログラムの教育取組の継続、更には新大学院組織での取組の実施によって、その真価はより顕在化するものと確信しています。

本プログラムを実施するにあたり、前理学院長の岡田尚武先生（現副学長）ならびに現理学院長の山口佳三先生には、理学研究院独自の予算措置やヒヤリングへの同席など、多大なご尽力を賜りました。この誌面をお借りして厚く御礼申し上げます。

▼化学系新大学院組織「総合化学院」の設立



国際会議・シンポジウム等の開催

○ Mathematical Aspects of Image Processing and Computer Vision 2008 The 8th Symposium of MAIPCV

【数学部門】

標記国際研究集会が2008年11月20日から11月22日にかけて、北海道大学クラーク会館において開催されました。

画像処理やコンピュータ・ビジョンの分野は、情報科学技術の典型的な分野であり、従来より様々な数学の分野が、この分野の発展に本質的に寄与してきました。特に、幾何学の分野である特異点論や、解析学の分野である偏微分方程式論との関係が深く、世界各国では盛んに共同の研究がなされています。しかし、残念ながら、日本においては、情報科学と数学との結びつきは、あまり強いとは言えない状況でした。この状況を打破するために、北海道大学数学部門では2000年より、内外の情報科学の専門家及び特異点論研究者、偏微分方程式論研究者を含む様々な分野の数学者が活発に意見交換を行う場として、小規模ながらMathematical Aspects of Image Processing and Computer Vision（主催者、儀我（東大理）、泉屋（北大理）、利根川（北大理）、出口（東北大情報））と題する国際研究集会を毎年開催してきました。今回はこの一連の研究集会の第8回目にあたります。

これまで、この研究集会には海外から、A. Bruckstein(2001年, Israel), J. Rieger(2002年, Germany), G. Aubert(2002年, France), B. Kimiya(2003年, USA), T.Y. Richard(2003年, USA), P.J. Giblin(2004年, UK), T. Chan(2005年, USA), Y. Kergosien(2005年, France), A. Chambolle(2006年, France), S. Esedoglu(2006年, USA), D. Davis(2007年, UK), G. Sommer(2007年, Germany), 松下康之(2007年, 中国)と様々な国の数学及び情報科学の研究者が参加してきました。

この研究集会は双方の分野の研究者が気軽に集まり、お互いに協力することにより、新たな分野を創造する為の下地を作ること为目标としており、今後も毎年開催して行く予定です。

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.math.sci.hokudai.ac.jp/sympo/maipcv/>



○ The 6th HU and SNU Symposium on Mathematics-Geometry and Topology- as a part of The 11th HU-SNU Joint Symposium 【数学部門】

今回は数学の中でもテーマ「幾何学とトポロジー」と絞り、ソウル大学数学教室から3名の教員、2名の大学院生を迎え11月8日（土）に上記分科会を開催しました。テーマを絞った理由の一つは、より実質的な研究交流を目指したからです。昨年までよりも時間を長くとした主講演4つと大学院生など若手研究者による短めの講演を6つ設定し、参加人数は25名ほどとなりました。

ソウル大学側からは、4次元異種多様体、複素曲面の構成で4次元トポロジーに大きく貢献しているJongil Park氏が講演の企画を手伝ってくれました。Park氏の最近の研究についての主講演の他、Jaehyun Hong氏とCheol-Hyun Cho氏が主講演を行いました。Hong氏はHermite対称空間をモデルにした幾何構造を正則曲線の接分布を用いて把握する彼女が寄与する研究について、また、Cho氏はtoric多様体と呼ばれる多様体でのLagrange部分多様体のFloer理論の進展についてサーベイ講演を行いました。北大側からは、今秋まで北大数学教室で日本学術振興会特別研究員であった阿部拓郎氏（現京大助教（グローバルCOE））が多重配置に付随した対数型ベクトル場や微分形成のなす加群についての主講演を行いました。どの講演も興味深く、実質的な研究交流の機会を作るという目的に適ったものでした。

これらの講演の後に続いた若手研究者による講演も、今後の進展を期待させる良いものとなりました。

上述のHong氏の講演は、我々の教室の山口佳三教授の研究に関わるものであり、また、Cho氏の研究は、私が数年来仲間と進めている研究の上に立ったもので、ここ数年お互いの研究に強い関心を持ってきました。若手研究者や大学院生も含めた研究交流を進めるためにもソウル大学とのジョイントシンポジウムは有意義なので、今後とも継続してゆくことを確認して散会となりました。

○ 国際自然免疫シンポジウムー自然免疫の認識分子から抗菌ペプチドまでー
“Regulation in Innate Immunity from Recognition Molecules to Antimicrobial Peptides”
【生命理学部門】

期日： 2008年10月28日（火）ー10月29日（水）

場所： シオノギ創薬イノベーションセンター産学連携ホール

代表者： 理学研究院 教授 河野 敬一 先端生命科学研究院 教授 綾部 時芳

「国際自然免疫シンポジウムー自然免疫の認識分子から抗菌ペプチドまでー」が本学理学研究院、先端生命科学研究院、医学研究科、歯学研究科の多数の自然免疫研究者の参加により開かれました。

本シンポジウムは、小腸パネート細胞に抗菌ペプチドである α デフェンシンを発見したことで著名な自然免疫系研究の先駆者であるカルフォルニア大学アーバイン校のOuellette教授、およびグラム陰性菌表層物質リポ多糖を認識するToll様レセプター4の立体構造の決定で脚光を浴びている韓国KAISTのJie-Oh Lee教授の2人の海外研究者を招聘して行われました。

加えて北海道を中心とした国内の著名な自然免疫系研究者をお招きし、レセプターによる異物の認識機構から、自然免疫の最前線で作用する抗菌ペプチドまで、基礎科学から臨床応用まで含む幅広い自然免疫関連のテーマを取り上げ、この分野の理解を深めることができました。

多くの研究者、院生が講演やポスターなどで刺激的な発表を行い、活発な議論がなされました。特に外国の方の参加者も考慮して、ほとんどすべての講演・ポスターは英語で行われました。特別講演は2、主要講演は11、短い講演は4、ポスターは14ありました。参加者は総数100名近くあり非常に盛況でした。

なお、このシンポジウムは大学院教育支援プログラム「融合生命科学プロフェッショナルの育成」の協賛によって行われたものです。

▼議論に熱心に聞き入る参加者たち



▼懇親会での交歓風景



外国人研究者受入状況

期間：2008年10月02日～2009年01月01日

(受入れ部門名：数学)

年 月 日 (期 間)	来 訪 者 (国名・所属・職名・氏名)	目 的 【経 費 等・受入教員】
2007.10.09 -2009.10.18 【再掲】	オランダ：University Libre de Bruxelles 研究員 Otto van Koert	研究打合せ 【日本学術振興会事業・小野 薫】
2007.10.20 -2008.10.20 【再掲】	中国：North East Normal University 研究員 陳 亮	研究打合せ 【私費(研究者本人負担)・泉屋 周一】

(受入れ部門名：化学)

年 月 日 (期 間)	来 訪 者 (国名・所属・職名・氏名)	目 的 【経 費 等・受入教員】
2007.10.01 -2009.03.31 【再掲】	中国：北海道大学大学院理学研究院 博士研究員 趙 健偉	グローバルCOEプログラム 「触媒が先導する物質科学イノベーション」に 関する研究 【北海道大学・村越 敬】
2008.04.12 -2010.03.31 【再掲】	中国：中国科学院 長春応用化学研究所 研究生 史 立紅	博士研究員として研究活動 【グローバルCOEプログラム・魚崎 浩平】
2008.06.28 -2008.12.31 【再掲】	カナダ：サイモン・フレイザー大学 修士課程2年 姜 志峰	特別研究学生として研究活動 【外国政府、研究機関及び国際機関・魚崎 浩平】
2008.08.01 -2009.05.31 【再掲】	ロシア：ロシア科学アカデミー・ ヨッフエ物理-工学研究所 Mikhail V. Lebedev	外国人招へい研究者として研究活動 【日本学術振興会事業・魚崎 浩平】
2008.08.11 -2009.10.26 【再掲】	インド：北海道大学大学院理学研究院 博士研究員 Pankaj R. Singh	博士研究員として研究活動 【受託・共同研究費・魚崎 浩平】
2008.11.22 -2010.11.21	中国：ハルビン工業大学 教授 Sheng Li	キセノン化合物とグラファイトとの相互作用に 関する理論的研究 【日本学術振興会事業・武次 徹也】
2008.12.01 -2010.03.31	ロシア連邦：北海道大学大学院理学研究 院 COE博士研究員 Andrey Lyalin	金属クラスターの触媒特性に関する理論的研究 【グローバルCOE経費・武次 徹也】

(受入れ部門名：自然史科学)

年 月 日	来 訪 者	目 的
-------	-------	-----

(期 間)	(国名・所属・職名・氏名)	【経費等・受入教員】
2007.06.09 -2009.06.08 【再掲】	ロシア連邦：ロシア科学アカデミー 太陽地球物理研究所 Junior Research Scientist・ Elvira I. Astafyeva	稠密GPS網を利用した地震に伴う電離層擾乱に 関する研究 【日本学術振興会事業・日置 幸介】

(受入れ部門名：生命理学)

年 月 日 (期 間)	来 訪 者 (国名・所属・職名・氏名)	目 的 【経費等・受入教員】
2008.10.01 -2008.11.01	ハンガリー：センメルヴァイス大学医学 部 助手 Eszter Balint	ヒヨコ線条体におけるシグナル伝達と記憶形 成： 遺伝子導入による解析 【日本学術振興会事業・松島 俊也】

(受入れ部門名：地震火山研究観測センター)

年 月 日 (期 間)	来 訪 者 (国名・所属・職名・氏名)	目 的 【経費等・受入教員】
2008.09.15 -2009.03.31 【再掲】	エチオピア：Department of Earth Sciences, Addis Ababa University Associate Professor Lulseged Ayalew Yimam	GISによる地球物理データの統一的マッピン グと データ間の相関に関する研究 【北海道大学・笠原 稔】

海外からの来訪者(短期滞在)

期間：2008年10月02日～2009年01月01日

【受入れ部門名：数学】

年 月 日 (期 間)	来 訪 者 (国名・所属・職名・氏名)	目 的 (受入教員)
2008.10.13 -10.19	ドイツ：University of Duisburg-Essen 研究員 Henrik Russell	セミナーでの講演 (中村 郁)
2008.11.01 -11.30	オーストリア：RICAM (Johann Radon Institute for Computational and Applied Mathematics) ポスドク研究員 Mourad Sini	研究打合せ (中村 玄)
2008.11.07 -11.09	韓国：Seoul National University 教授 Jongil Park	研究集会への参加と講 演 (小野 薫)
2008.11.07 -11.09	韓国：Seoul National University 教授 Jaehyun Hong	研究集会への参加と講 演 (小野 薫)
2008.11.07 -11.09	韓国：Seoul National University 教授 Cheol-Hyun Cho	研究集会への参加と講 演 (小野 薫)
2008.11.07 -11.09	韓国：Seoul National University 院生 Sanwook Lee	研究集会への参加と講 演 (小野 薫)
2008.11.07 -11.09	韓国：Seoul National University 院生 Heesang Park	研究集会への参加と講 演 (小野 薫)
2008.11.19 -11.23	イスラエル：Technion-Israel Institute of Technology 研究員 Michael Bronstein	研究集会への参加と講 演 (利根川 吉廣)
2008.11.19 -11.23	イスラエル：Technion-Israel Institute of Technology 教授 Alexander Bronstein	研究集会への参加と講 演 (利根川 吉廣)
2008.11.23 -12.21	イタリア：University of Udine 教授 Antonino Morassi	研究打合せ (中村 玄)
2008.12.10 -12.16	フランス：CNRS (フランス国立科学研究センター) 教授 Jean-Paul Brasselet	研究打合せ (大本 亨)

【受入れ部門名：自然史科学】

年 月 日 (期 間)	来 訪 者 (国名・所属・職名・氏名)	目 的 (受入教員等)
2008.10.15 -10.29	中国：地質大学(北京) 教授 Li Shengrong	研究交流と講演 (藤野 清志)

【受入れ部門名：生命理学】

年 月 日 (期 間)	来 訪 者 (国名・所属・職名・氏名)	目 的 (受入教員等)
2008.11.20 -11.23	ハンガリー：Semmelweis Medical University 教授 Miklos Zrinyi	講演等 (龔 劍萍)

外国の研究機関との共同研究

【実施部門名：生命理学】

研究課題名 (共同研究実施期間)	相手先 (国・研究機関・代表者職・氏名)	経費等 受入教員
ヒヨコ線条体におけるシグナル伝達と記憶形成： 遺伝子導入による解析 (2008年度～2009年度)	ハンガリー・センメルヴァイス 医科大学・教授・Andras Csillag	日本学術振興会 二国間交流事業 松島 俊也
投機的選択と報酬予測の神経生態学 (2008年度)	ニュージーランド・オタゴ大学 准教授・Michael Colombo	日本学術振興会事業 松島 俊也

学位授与

平成20年12月25日付け学位授与者

【課程博士】（理学研究科2名）

澁谷 一博（数学専攻）

Prolongations of canonical systems on Jet spaces
(ジェット空間の正準微分式系の延長)

主査 教授 山口 佳三

川村 隆三（生物科学専攻）

Study on Dynamic self-assembly of Microtubules by Kinesin
(キネシンによる微小管の動的自己組織化に関する研究)

主査 教授 龔 劍萍

人事異動

対象期間：平成20年10月2日～平成21年1月1日

<正規職員>

平成20年10月1日付け発令

(昇任)

係長（大学院教育担当）	芳岡洋
同担当主任から	

(転出)

主任（大学院教育担当）	北野修司
放送大学学園教務部教務課教育課程編成係長へ	
外部資金担当	児玉直樹
財務部調達課物品契約担当へ	
主任（研究協力担当）	熊坂浩
北キャンパス合同事務部主任（総務担当）へ	

(転入)

外部資金担当	左海賢志
北方生物圏フィールド科学センター会計担当から	
大学院教育担当	安齋愛郎
日高青少年自然の家事業推進係から	
研究協力担当	瀧川翼
弘前大学学術情報部情報基盤課から	

平成20年11月1日付け発令

(採用)

化学部門無機・分析化学分野 准教授	張浩徹
京都大学大学院工学研究科助教から	

(昇任)

数学部門 教授	利根川吉廣
同部門准教授から	
数学部門 教授	松本圭司
同部門准教授から	

(転入)

生命理学部門生命機能科学分野 教授	松田洋一
-------------------	------

創成科学共同研究機構ゲノムダイナミクス研究部門教授から	
生命理学部門生命機能科学分野 准教授	瀧 谷 重 治
創成科学共同研究機構ゲノムダイナミクス研究部門准教授から	
生命理学部門生命機能科学分野 准教授	北 田 一 博
創成科学共同研究機構ゲノムダイナミクス研究部門准教授から	
生命理学部門生命機能科学分野 講師	黒 岩 麻 里
創成科学共同研究機構ゲノムダイナミクス研究部門講師から	
生命理学部門生命機能科学分野 助手	西 田 千鶴子
創成科学共同研究機構ゲノムダイナミクス研究部門助手から	
生命理学部門生命機能科学分野 教務職員	西 田 義 憲
創成科学共同研究機構ゲノムダイナミクス研究部門教務職員から	
生命理学部門生命機能科学分野 教務職員	出 口 善 行
創成科学共同研究機構ゲノムダイナミクス研究部門教務職員から	
自然史科学部門多様性生物学分野 准教授	増 田 隆 一
創成科学共同研究機構ゲノムダイナミクス研究部門准教授から	
生命理学部門生命融合科学分野 助教	菊 川 峰 志
創成科学共同研究機構ゲノムダイナミクス研究部門助教から	
技術部 技術専門職員	小 針 布実子
創成科学共同研究機構ゲノムダイナミクス研究部門技術専門職員から	

＜非正規職員＞

（採用、配置換）

H20.10. 1	地震火山研究観測センター	非常勤研究員	河 野 裕 希
H20.10. 1	自然史科学部門	技術補助員	阿 部 憲 一
H20.10. 1	自然史科学部門	技術補助員	橋 口 未奈子
H20.10.15	数学部門	学術研究員	河 村 尚 明
H20.10.16	物理学部門	学術研究員	八 木 駿 郎
H20.10.20	自然史科学部門	学術研究員	小 松 研 吾
H20.10.20	自然史科学部門	技術補助員	中 橋 あや子
H20.10.22	化学部門	博士研究員	林 ジュン忠
H20.11. 1	化学部門	博士研究員	張 華 新
H20.11. 1	自然史科学部門	技術補助員	井 田 幸 子
H20.11. 1	自然史科学部門	技術補助員	吉 川 亜 子
H20.11. 1	生命理学部門	博士研究員	石 島 淳 子
H20.11. 1	生命理学部門	博士研究員	松 原 和 純
H20.11. 1	生命理学部門	事務補佐員	沖 山 ゆり子
H20.11. 1	生命理学部門	事務補佐員	丸 山 果 織
H20.11. 1	生命理学部門	事務補助員	川 村 いぶき

H20.11. 1	生命理学部門	技術補助員	佐々木 尚 代
H20.11. 1	生命理学部門	研究支援推進員	小 坂 あゆみ
H20.11. 1	科学技術コミュニケーター	博士研究員	齊 藤 健
H20.11.10	化学部門	事務補助員	今 井 麻 友
H20.11.10	生命理学部門	博士研究員	梁 松 苗
H20.11.10	科学技術コミュニケーター	特任助教	早 岡 英 介
H20.12. 1	数学部門	学術研究員	金 敬 善
H20.12. 1	化学部門	博士研究員	アンドレイ リャーリン
H21. 1. 1	自然史科学部門	博士研究員	島 村 道 代
H21. 1. 1	自然史科学部門	学術研究員	小 林 憲 生
H21. 1. 1	自然史科学部門	技術補助員	植 田 朋 子

(任期満了退職、辞職、転出)

H20.10. 7	物理学部門	学術研究員	須 田 拓 馬
H20.10.31	科学技術コミュニケーター	特任准教授	三 上 直 之
H20.10.31	地震火山研究観測センター	技術補佐員	三 浦 亮
H20.11.21	自然史科学部門	学術研究員	小 松 研 吾
H20.11.30	生命理学部門	学術研究員	高 嶋 聰
H20.12.15	化学部門	博士研究員	渡 邊 賢 二

行事予定

〈平成21年1月～平成21年4月初旬〉

月	日	曜	事 項
1	6	火	全学教育・理学部・大学院理学院授業再開
	8	木	大学院理学院第二次入試出願資格予備審査結果通知【16：30頃】
	9	金	大学院理学院修士（博士前期）課程・博士後期課程第二次入学願書受付【～15日（木）】
	17	土	大学入試センター試験【～18日（日）】【16日（金）休講】
	28	水	月曜日の授業振替補講日
	30	金	転学・転部・転科・編入学・再入学申し出締切
2	3	火	月曜日の授業振替補講日・第2学期授業終了
	4	水	大学院・学部専門科目補講・集中講義期間【～20日（金）】
	5	木	【4日（水）午後～6日（金）原則休講：条件により一部は実施可】 大学院理学院修士（博士前期）課程・博士後期課程第二次入学試験【～6日（金）】
	10	火	修士論文題目提出締切
	13	金	3月学位授与予定者の審査報告関係書類提出締切
	16	月	研究生・聴講生・科目等履修生入学願書受付【～20日（金）】
	20	金	博士学位申請（3月付託）
3	25	水	本学第2次入学試験（前期日程）【24日（火）試験場設営】
	5	木	大学院理学院修士（博士前期）課程・博士後期課程入学試験合格者発表【16：30頃】 研究生・聴講生・科目等履修生入学許可通知【16：30頃】
	上～中旬		学科等分属手続き（平成17年度以前入学者のみ対象）
	12	木	本学第2次入学試験（後期日程）【11日（水）試験場設営】
	25	水	学位記授与式
	27	金	学位申請（4月付託）締切
4	2	木	大学院理学院入学式
	6	月	大学院・学部専門科目授業開始
	7	火	学部新入生オリエンテーション及びガイダンス
	8	水	北海道大学入学式